

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	和光市児童発達支援センターやまぼうし（放課後デイサービス）		
○保護者評価実施期間	8年 2月 1日		8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 12人
○従業者評価実施期間	8年 2月 20日		8年 3月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 26日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育士、児童指導員がなるべくマンツーマンに近い職員配置で、個々のレベルに合わせた支援ができるよう努力しています。	安全に気を付けて送迎を行っています。また、送迎時に保護者様と顔を合わせてお子さんの様子や成長について情報共有をすることで、ご家庭とのコミュニケーションの機会とし、よりよい支援に繋がっています。	職員の年間研修計画を立て、スキルアップのための学習機会の確保をさらに充実させていきたいと考えています。
2	利用していただいているお子様の多くが通う小牧特別支援学校から車で5分と近い為、移動時間が短く、事業所での活動時間を長く確保できています。また、隣に消防署があるほか、周辺の施設は災害時の避難所でもある為、もしもの時にも安心できる立地条件であると思います。	外遊びの時間や散歩の時間など、子どもたちがのびのびと楽しく1日を過ごせるようにつとめています。	継続して求人かけることによる当日のスタッフ人員の確保をより充実させていきたいと考えています。
3	医療的ケアが必要な子どもや重い障がい特性がある子ども達をチームで支えていく為、職員の意思疎通や連携について看護師など専門職も交えて話し合いの時間を豊富に設けて取り組んでいます。	卒後の事を踏まえて基本的な挨拶ができるように支援しています。発語がなくてもジェスチャー等で人に挨拶が出来るように生活力を身につけてほしいと考え、毎日のミーティングで話し合い支援計画を職員みんなで考えています。	療育のサポートをするアプリを導入しており、日々の業務効率を改善させるためにもICT化を進めていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達の年齢、障害特性に対して、室内の狭さや設備の充実に課題があると考えています。	保護者会やペアレントとレーニングなど、保護者との継続した交流の機会が十分ではない。	事業所のたよりなどを定期的に発行するようにして、保護者向けの情報を充実させる。年間を通して保護者会などを企画して、密に連携がとれるようにしていきたい。
2	地域の子供、他の放課後等デイサービスとの関わりが薄いと考えているため、今後は交流のイベントなどを増やしていきたいと考えています。	他の放課後等デイサービスや児童発達支援センターとの連携の機会をなかなか持たず、地域の子供達と関わる機会が十分につくれていない。	他の放課後等デイサービスとの交流イベントを継続的に行なうようにする。中核的支援機能充実の一環としても他の事業者などとの連携については充実させていきたい。
3	保護者アンケートの結果から、事業所とご家庭の連絡手段に課題があることが考えられます。	職員の高齢化が進んでおり、PC・タブレットの使える職員数が少なくなっています。ICT化が進む中、Word、Excel、PowerPointのPCツールやタブレット等の使える職員に仕事が集中してしまう状況にあります。	施設の広さや設備についての課題があるため、より安心・快適な環境を用意するために施設の増改築を検討している。